

1 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方をくふうする

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に悩んでいた問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、いざいざに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとくらべてみました。つきさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量

日	農家の田んぼの雑草の量	学校の田んぼの雑草の量
7月1日	2	4
7月2日	3	5
7月3日	2	4
7月4日	3	5
7月5日	2	4
7月6日	3	5
7月7日	2	4
7月8日	3	5
7月9日	2	4
7月10日	3	5
7月11日	2	4
7月12日	3	5
7月13日	2	4
7月14日	3	5
7月15日	2	4

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

【カード①】

6月24日

- ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- ・このまま雑草が増えたら米のしょうかくにたいさをするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日

- ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えている。
- ・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- ・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- ・調査期間 7月1日～15日

【カード③】

7月19日

- ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
- ・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の田んぼに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日

【農家の田んぼさんのお話】

- ・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いざいざが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。 a 【川村さんの文章】のグラフから分かること b 【カード④】から分かること ② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。	27. 8%	65. 7%	6. 5%

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
(誤答例) 条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの 又は 条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの	学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることかのいずれかしか書いていない。このことから、グラフから分かることと、【カード④】から分かることを関係付けて捉えることができなかったと考えられる。

内容の系統と指導のポイント

小学校第1・2学年



作り方や使い方などの説明をするときには、「まず」「次に」「そして」などの順序が分かる言葉を使うと分かりやすいということに気付くことができるようにする。

自分の考えを伝えるために、言葉のつながりや使い方に注意して、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫できるようにする

せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう（光村図書二下）

- ① おもちゃの作り方について書かれている文章を読み、分かりやすく伝えるための工夫を見つける。
- ② 説明するおもちゃを決め、説明の順序を考える。
- ③ 順序を表す言葉や写真、絵等を使ったり、内容のまとまりを確かめたりしながら、まとまりがはっきり分かる文章を書く。
- ④ 書いた文章を友達と読み合い、工夫しているところを伝え合う。

B 書くこと ウ

語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

小学校第3・4学年



友達の文と自分の文を比較して読み合う際、自分の考えが妥当な理由に支えられているか、事例が客観的な事実に基づいているか確認したり、理由と例を区別し、文末表現の書き表し方について吟味したりすることができるようにする。

自分の考えを伝えるために、自分の考えを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫できるようにする

考えたことを書き、読み合おう（光村図書四下）

- ① 調べて分かったことをカードに整理し、その中から自分の考えに合う理由や例を選ぶ。
- ② 文章の組み立てを考える。
- ③ 理由や例を挙げたり、それらを明確に示す表現を用いたりして、自分の考えがはっきりと伝わるように文章を書く。書いた文章を読み返す。
- ④ 書いた文章を友達と読み合い、書こうとしたことが明確になっているかなど、気付いたことや文章のよいところを伝え合う。

B 書くこと ウ

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

小学校第5・6学年



文章を考える際には、それぞれの資料からキーワードを見つけて囲んだり、線でつないだりすることにより、必要な資料から情報を適切に取り上げ、関係付けて書くことができるようにする。

目的を明確にし、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする

資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう（光村図書五）

- ① テーマに関する資料を基に自分の考えをもち、自分の考えに合った図表やグラフなどの資料を選ぶ。
- ② 文章の構成を考える。
- ③ 自分の考えと図表やグラフなどの資料との関連が分かるように、文章を書く。
- ④ 書いた文章を友達と読み合い、文章の構成の仕方や、図表やグラフなどの資料の用い方、言葉の選び方等について、よいところを伝え合う。

B 書くこと エ

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

本設問の活用の手順

- ① 文章を書き始める場面では、書く目的や内容を検討する時間を設定し、伝える相手を明確にしたり、経験を基に材料を集めたり、何をどのように書くかを考えたりできるようにする。
- ② 情報を整理する場面では、情報の扱い方に関する知識及び技能（情報と情報との関係、情報の整理）との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにする。その際、ICT 機器を活用することも効果的である。
- ③ 文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるようにする。また、必要に応じて図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、それらを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるようにする。